

評価者	文化財部長	榊 規彰
-----	-------	------

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

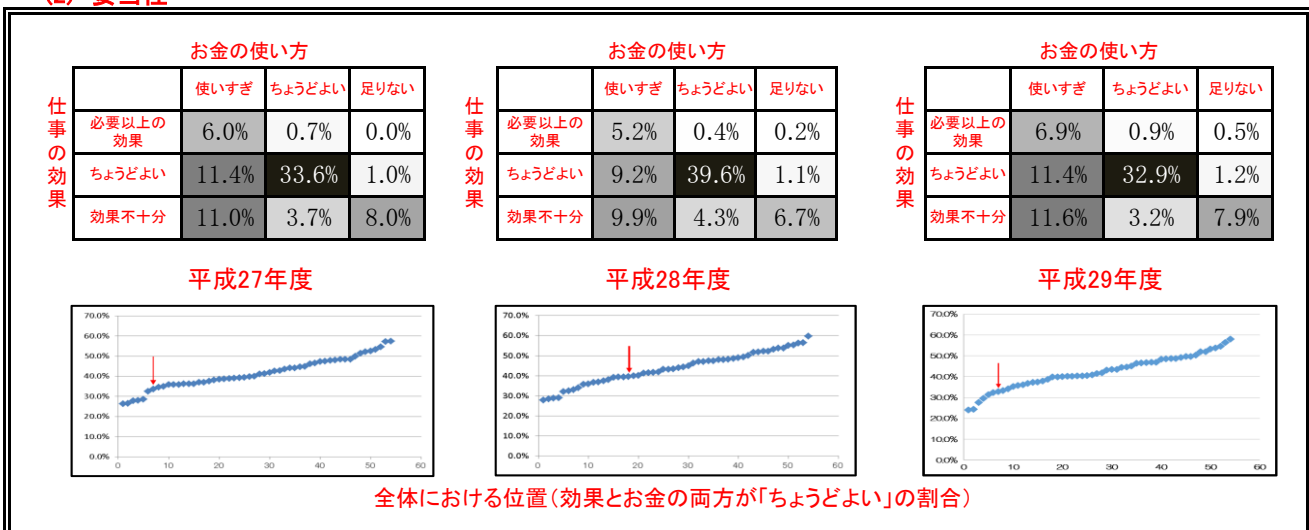
総合計画上の位置付け	分野	歴史環境	施策の方針	文化財の保存、調査・研究、情報の充実
目標とすべきまちの姿	文化財保護体制の強化により、文化財指定件数が増え、文化財の適切な保存が図られています。発掘調査体制が強化され、市内遺跡の発掘調査及び報告書刊行が円滑に行われています。文化財資料がデータベース化され、出土品、歴史資料等の整理、保管がなされています。保管する文化財は展示施設等で一般に公開されるとともに、文化財の調査・研究の成果は、学校教育・生涯学習事業と連携し、市民への情報として発信されています。郷土芸能大会などによる情報発信により、伝統芸能の保護・技術の伝承が図られています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成27年度	18.6%	平成28年度	18.8%	平成29年度	18.1%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性



(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
平成29年度	19.5%	44.1%	12.3%	24.1%
平成28年度	16.0%	51.5%	8.9%	23.6%
平成27年度	18.7%	45.1%	11.4%	24.7%

2 内部評価

(1) 平成29年度の目標

- ①発掘調査費補助金制度を活用しながら、発掘調査待機期間の短縮を図る。また、未刊行報告書の迅速な刊行を図る。(文財-04)
- ②文化財の状況を正確に把握することで、適切な修理を円滑に行う。(文財-05)
- ③鎌倉の歴史文化に対する理解を促進するため、これまで以上に、出土遺物の展示機会の拡充に努めるとともに、発掘調査現場の見学や鎌倉国宝館及び鎌倉歴史文化交流館との連携などを通じて教育や学習に役立てる機会を設けていく。(文財-06)
- ④鎌倉国宝館では、展示会の開催、収蔵品の充実、学校教育・生涯学習事業との連携に努めていく。また、これらの事業について様々な媒体を活用し周知を行う。(文財-07)
- ⑤鎌倉国宝館では、平成28年度に引き続き、免震型展示ケースの導入を実施し、文化財がより適切に保存できる体制を整える。(文財-07)
- ⑥平成29年5月開館を目指し、鎌倉歴史文化交流館の開館準備を進める。(文財-08)
- ⑦鎌倉歴史文化交流館については、周辺の住環境に配慮しつつ、市民等に親しまれる魅力的な施設となるよう、積極的な運営及び維持管理を行う。(文財-08)
- ⑧鎌倉歴史文化交流館については、広報、SNS等において、積極的に施設のPRを行う。(文財-08)

(2) 目標とすべきまちの姿と平成29年度の目標との関連性

- ①発掘調査の待機期間を短縮すること、報告書未刊行の調査資料の整理を進めることで、文化財の適切な保存を図る。(文財-04)
- ②文化財の状況を正確に把握し円滑に修理を行うことで、文化財の適切な保存を図る。(文財-05)
- ③出土遺物の展示機会の拡充に努め、発掘現場見学の実施や、鎌倉国宝館、鎌倉歴史文化交流館、学校教育・生涯学習事業との連携を進めることで、市民へ情報として発信する。(文財-06)
- ④⑤鎌倉国宝館では、収蔵資料を良好な環境の下で保存管理し、まちの歴史資料等の整理、保管に寄与している。(文財-07)
- ⑥⑦⑧鎌倉国宝館及び鎌倉歴史文化交流館では、展覧会の開催や各種イベントの積極的な実施、学校教育等との連携により、鎌倉の文化財の保存・活用、普及啓発を行い、市民等の利用に供する施設として運営している。(文財-08)

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		法定受託事務	今後の方向性	
整理番号	事業名	平成28年度	平成29年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度		事業内容	予算規模
文財-04	文化財調査・整備事業	82,676	171,889	211,002	244,477	5.0	4.0		a	A
文財-05	文化財保存・修理助成事業	57,306	59,759	71,493	63,220	1.5	1.5		b	B
文財-06	公開宣伝事業	1,560	1,514	9,337	10,146	1.0	1.0		b	B
文財-07	国宝館管理運営事業	114,186	85,494	115,797	106,195	4.0	3.5		b	B
文財-08	鎌倉歴史文化交流館管理運営事業	525,238	71,940	103,550	102,395	4.0	3.5		b	B

(4) 主な実施内容

【主な実施内容】

- ①報告書未刊行資料の縮減について、新たな方策として業務の一部を外部に委託し出土資料の整理・報告書の刊行を行った。その結果、市直営で行ったものと合わせ、27件分刊行できた。(文財-04)
- ②優先度の高いものから適切に保存修理事業が行えるよう、国庫や県費の補助金の活用を視野に入れ、文化財の所有者と密に連携をとりながら、当該文化財の状況を確認し、事業を実施した。(文財-05)
- ③市民、市役所職員への啓発事業として、文化財課カウンター前に展示している出土品の展示替えを行った。(文財-06)
- ③平成29年5月に開館した鎌倉歴史文化交流館と連携し、出土遺物の展示を行った。(文財-06)
- ③遺跡調査・研究発表会展の実施等のほか、『鎌倉の文化財』の出版を行うことで、市指定文化財の周知に努めた。(文財-06)
- ④⑧鎌倉国宝館と鎌倉歴史文化交流館では、広報、SNS等において館の情報発信を行うとともに、講座等の様々な催しを実施し、市民等の学びの場として積極的にPRを行った。(文財-07,08)
- ⑤鎌倉国宝館では、免震型展示ケース1台の導入を行い、利用者の利便性向上と文化財の確実な保存に努めた。(文財-07)
- ⑥子どもから大人までが、鎌倉の歴史的遺産・文化的遺産を学び、体験し、交流できる場として、平成29年5月に鎌倉歴史文化交流館として開館した。(文財-08)
- ⑦鎌倉歴史文化交流館では、周辺の住環境に配慮しつつ、市民等に親しまれる魅力的な施設となるよう、積極的な運営及び維持管理を行った。(文財-08)

【実施できなかった事業とその理由等】

- ①新たな方策を実施していくことで、発掘調査実施までの待機期間・発掘調査報告書未刊行の件数ともに平成27年度以降縮減できているが、さらなる短縮が求められているところであり、引き続き工夫が必要である。(文財-04)
- ②文化財の円滑な修理を行うための方針の明確化ができなかった。今後大規模修繕を行う予定の文化財も控えており、予算措置や工程等について調整する必要がある。(文財-05)
- ③出土遺物の展示場所の確保が十分とは言えない。再整理済み出土遺物のさらなる活用についても、今後検討していく。(文財-06)

(5) 平成29年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	☐ 適切	☒ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	☒ 適切	☐ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	☐ 適切	☒ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	☐ 適切	☒ 要改善
<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等> ・新たな方策として、発掘調査後に未刊行となっていた「発掘調査報告書」刊行業務の一部を外部に委託し、未刊行報告書を縮減することで一定の成果は得られたが、さらなる短縮が求められているところであり、引き続き工夫が必要である。(文財-04) ・発掘調査費補助金の創設により、発掘調査開始までの待機時間縮減がはかられ「目標とすべきまちの姿」の実現に近づいたが、市民生活への影響を一層減らすため、調査・研究体制の強化について引き続き検討を進める必要がある。(文財-04) ・文化財の保存・修理について、成果は一定程度出ているが、文化財の状況を的確に把握しつつ、緊急性・重要性に応じて保存修理を継続的に支援していく必要がある。多種多様な市内文化財全体の状況把握は非常に難しく、更なる努力は必要である。(文財-05) ・文化財の保存・修理について、文化財所有者へ適切な受益者負担を求めている。(文財-05) ・『鎌倉の文化財』の発行など、市内文化財の周知・啓発の機会を増やしたが十分とは言えず、また、収蔵施設に保管されたまま活用できていない出土遺物等も多く存在しているため、創意工夫、自発的活動が必要である。(文財-06) ・鎌倉国宝館において、免震型展示ケース1台の導入を行い、文化財がより確実に保存できる体制が整えられた。(文財-07) ・鎌倉国宝館では、特別展開連講座や出張講座といった一般向けの公開講座を実施したほか、市内外の小中高等学校の観覧時にも特別解説等を実施することで、学校教育との連携ができた。(文財-07) ・鎌倉国宝館及び鎌倉歴史文化交流館は、教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする施設であることから、公正・公平な収支を優先事項とすることは困難であるが、維持運営のための必要な対価として、観覧料導入等の受益者負担を求めており、今後も引き続き歳入確保に向けた取組(鎌倉歴史文化交流館の日曜開館など)を実施する必要がある。(文財-07,08)			

(6) 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

・発掘調査実施までの待機期間・発掘調査報告書未刊行の件数ともに平成27年度以降縮減できているが、さらなる短縮が求められているところであり、引き続き工夫が必要である。(文財-04) ・発掘調査により調査資料は毎年増加しており、保管場所の確保と資料の整理は課題として残っているため、方策を検討していく。(文財-04) ・文化財の円滑な修理を行うための方針等を明確化していく。(文財-05) ・今後大規模な修理を行う予定の文化財があるため、予算措置や工程等について調整していく。(文財-05) ・遺物の展示場所の確保が十分ではないため、展示場所の拡充を検討するとともに、再整理済み出土遺物のさらなる活用についても、検討していく。また、毎年開催している遺跡調査・研究発表会は専門性がやや高いため、市民が鎌倉の文化財により親しみが持てるよう、遺跡調査速報展に加え、新たな取り組みの実施についても検討を行っていく必要がある。(文財-06) ・鎌倉国宝館では、引き続き文化財を適切な状態で保存し、一般公開を行うとともに、学校教育・生涯学習事業との連携に努める。また、免震設備の導入を引き続き進めることで、文化財のより確実な保存を図る。(文財-07) ・鎌倉歴史文化交流館では、市民等により親しまれる魅力的な施設となるよう、展覧会や各種イベントの積極的な実施、学校教育・生涯学習事業との連携などに努めていく。また、周辺住民に配慮した開館時間等について、住民のご理解をいただきながら、日曜・祝日開館への取り組みを進めていく。(文財-08)
--

(7) 平成30年度の目標

①発掘調査費補助金制度を活用しながら、発掘調査待機期間の短縮を図るとともに、報告書未刊行の調査資料の整理を促進する。また、あわせて文化財の調査・研究の成果を広く公開するための資料のデジタル化を進める。(文財-04) ②文化財の保存・修理については、緊急性・重要性に応じて保存修理を継続的に支援していけるよう、文化財の状況の的確な把握に努める。(文財-05) ③鎌倉の歴史文化に対する理解を促進するため、これまで以上に、出土遺物の展示機会の拡充に努めるとともに、発掘調査現場の見学や鎌倉国宝館及び鎌倉歴史文化交流館との連携などを通じて教育や学習の機会を設けていく。(文財-06) ④市の直営文化施設である鎌倉国宝館・鎌倉歴史文化交流館の連携を強化し、鎌倉の文化財の保存・活用、普及啓発に努める。(文財-07,08) ⑤鎌倉歴史文化交流館では、周辺住民に配慮した開館時間等について、住民のご理解をいただきながら、日曜・祝日開館への取り組みを進めていく。(文財-08)

(8) 目標とすべきまちの姿と平成30年度の目標との関連性

①発掘調査費補助金制度を活用しながら、発掘調査待機期間の短縮を図るとともに、報告書未刊行の調査資料の整理の促進することで、文化財の適切な保護を図る。(文財-04)
 ②文化財の状況を的確に把握しつつ、緊急性・重要性に応じて保存修理を継続的に支援していくことで、文化財の適切な保護を図る。(文財-05)
 ③鎌倉の歴史文化に対する理解を促進するため、これまで以上に、出土遺物の展示機会の拡充に努めるとともに、発掘現場見学や国宝館及び鎌倉歴史文化交流館との連携などを通じて教育や学習の機会を設けていく。学校教育・生涯学習事業と連携し、市民への情報として発信される。(文財-06,07,08)
 ④⑤鎌倉国宝館及び鎌倉歴史文化交流館では、収蔵資料を適切に整理、保管し、展覧会の開催や各種イベントの積極的な実施、学校教育等との連携により、鎌倉の文化財を市民等へ情報発信する。(文財-07,08)

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	文財-04	事業名	文化財調査・整備事業										
指標の内容	未報告調査件数							単位	件	指標の傾向	↗	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	達成率=目標値/実績値					
未報告資料縮減が課題であるため。	目標値	-	-	65	45	33	22						
	実績値	-	77	63	51								
	達成率	-	-	103.2%	88.2%								

整理番号	文財-04	事業名	文化財調査・整備事業										
指標の内容	発掘調査までの待機時間							単位	月	指標の傾向	↗	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	達成率=目標値/実績値					
待機時間の縮減が課題であるため。	目標値	-	6.0	6.0	6.0	6.0	0.0						
	実績値	11.0	8.0	4.0	6.0								
	達成率	-	75.0%	150.0%	100.0%								

整理番号	文財-05	事業名	文化財保存・修理助成事業										
指標の内容	保存修理件数							単位	件	指標の傾向	↘	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31						
着実に保存修理を実施することにより、貴重な文化財をより良い状態で未来に引き継ぐことができるため。	目標値	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	11.0						
	実績値	12.0	11.0	12.0	11.0								
	達成率	171.4%	137.5%	133.3%	110.0%								

整理番号	文財-06	事業名	公開宣伝事業										
指標の内容	鎌倉市遺跡調査・研究発表会観客数							単位	人	指標の傾向	↗	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31						
観客数が多いほど、より多くの市民が、市内の埋蔵文化財への理解を深めていると判断できるため。	目標値	280.0	280.0	280.0	200.0	200.0	200.0						
	実績値	280.0	280.0	120.0	140.0								
	達成率	100.0%	100.0%	42.9%	70.0%								

整理番号	文財-07	事業名	国宝館管理運営事業										
指標の内容	入館者数							単位	人	指標の傾向	↗	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31						
当該事業へのニーズや反響を把握するため。	目標値	70,000.0	70,000.0	70,000.0	70,000.0	70,000.0	70,000.0						
	実績値	30,875.0	50,585.0	44,961.0	47,282.0								
	達成率	44.1%	72.3%	64.2%	67.5%								

整理番号	文財-08	事業名	鎌倉歴史文化交流館管理運営事業										
指標の内容	入館者数							単位	人	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	平成29年5月に鎌倉歴史文化交流館として開館した。					
周辺環境に配慮しながら、適切な運営を行う上で、施設の有効性を把握するため。	目標値	-	-	-	60,000	45,000	45,000						
	実績値	-	-	-	23,238								
	達成率	-	-	-	38.7%								

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

- ・鎌倉歴史文化交流館の完成が市民からの評価に繋がっていると考えると、これから近隣住民の理解を得ながらどう運営していくのが課題である。また、鎌倉を知る施設として有効的に機能させていく必要がある。
- ・600件あるとされる「鎌倉市指定文化財」であるが、「史跡」と同様に「減ることはない」存在である。少子化・高齢化の進展を踏まえ、保存修理の自主財源問題について長期的な展望を示すことが課題である。
- ・財政状況が厳しい中、市民意識調査において「経費をかけすぎている」とい意見が多いこと等、いずれの施設・文化財の維持管理について、経費をかけるばかりになってしまっていないか。効率性の面で検討が必要である。



指摘への対応、コメント等

- ・今後も周辺の住環境に配慮しつつ、市民等に親しまれる魅力的な施設となるよう、適切な運営・維持管理を行う。鎌倉の歴史や文化に関する情報や、学習機会を提供するための展示や各種イベントの積極的な実施に努めていきます。
- ・今後も優先度を見極めながら効果的な事業を行っていくが、ふるさと寄附金の活用など財源確保にも努めていきます。
- ・文化財の調査・整備や保存・修理の成果が見えるよう、広報等の他の部局との連携や市民との協業を図っていききたい。また、文化財施設については、財源確保の検討、効率的な運営により、適切な維持管理に努めます。

提言

- ・いよいよオープンした鎌倉歴史文化交流館を含め、各施設については型にはめることなく、収支バランスを考えて様々な運用・活用を行い財源確保も積極的に行ってほしい。
- ・鎌倉歴史文化交流館の利用率を上げるためには、より広報や案内などを充実させる必要がある。これについては近隣住民からの理解を得づらいという事から実施が難しいといった意見もある。「近隣住民は施設利用料を無料にする」「得られた収入で近隣の警備や清掃を行うことで、以前よりも清潔で安全な環境を提供する」など、利用率を上げることで近隣住民にメリットが生まれるような取組について、検討すべき。
- ・鎌倉歴史交流館と学校教育と連携がどこにも予定されていないが、予定がすでに組み込まれているのなら、評価の対象になり得るので活字にしておいてほしい。
- ・600件ある文化財の年間保存修理件数が平成28年度12件では多くの文化財がその対象とならない。逆に「市指定文化財」については「指定解除」を検討してほしい。
- ・発掘調査実施の待機時間の削減を目標としているので、指標にも含めるべき。
- ・本庁舎4階の展示スペースの整備にかなりの労力が使われているようであれば、歴史文化交流館の充実や活用に労力を集中すべき。



提言に対するコメント等(総論)

鎌倉国宝館、鎌倉歴史文化交流館が文化財施設として管理となったことから、2館の連携により、施設の維持費等、必要に応じて効率的な運営を検討していきます。

鎌倉歴史文化交流館の開館に際しては、周辺住民に配慮した開館時間(日曜祝日等閉館、開館時間10:00~16:00)で運営しており、文化施設として広く利用いただく上で大きな課題となっている。これについては議会の付帯決議とされており、今後住民環境等への影響などを見極めながら、住民との話し合いの場を設け、ご理解をいただき、日曜・祝日開館への取り組みを進めていきます。

市内小中学校の生徒に来館いただいた際には、学芸員による展示解説の実施や、鎌倉の歴史をクイズ形式で学べるワークシートの配付を行い、課外学習等に活用いただいています。H30年度も鎌倉国宝館と鎌倉歴史文化交流館と合同で年間パスポートを発行し市内小・中学校の児童・生徒に配付するなど、より学校教育との連携に努めていきます。

また、鎌倉歴史文化交流館では近年の発掘調査の結果を踏まえ、発掘調査速報展を実施しているが、今後もより魅力的な展示となるよう努めていきます。発掘調査実施の待機時間については、指標にも含めています。

質問

- ・文化財関連施設の入館者数実績は他自治体同種施設との比較で指標化出来ないか。
- ・新規の「文化財関連施設運営」の採算性見込みについては開設以前に情報開示されているか。



質問に対する回答

鎌倉国宝館においては、来館者数のデータの蓄積があり、他市施設をベンチマークとして比較を行っています。鎌倉歴史文化交流館の来館者データは1年分に満たないが、市が管理する文化施設の来館者数は平成29年度から指標化しています。

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・平成29年5月に鎌倉歴史文化交流館が開館した。施設としては優れた場所、建築である。内容も理解しやすいものであるが、さらに内容の充実、魅力を増す工夫をお願いしたい。遺跡調査研究発表会や文化財めぐりを開催などにより、市民、子どもたちへの歴史的環境への興味、教育を増進していることはよい取組であると考えられる。
- ・発掘調査の待機期間について、補助金制度を活用しながら短縮を図った。国宝館において7回の特別展と1回の平常展を開催し、関連の講演会を実施するなど、魅力ある展示の企画・実施に努め、入館者の増加を図ったことなど。鎌倉歴史文化交流館の改修工事が完成し、利用が始まった。
- ・業務の一部を外部委託などによりし出土資料の整理・報告書の刊行を行った結果、市直営で行ったものと合わせ、27件分刊行できた。
- ・鎌倉国宝館、鎌倉歴史文化交流館ともに積極的な運営及び維持管理をしていること。
- ・資料に対する実人数の把握をした。
- ・取組んでいる事業について、実態の把握・評価等、PDCAサイクルの確立に努めている。

評価の内訳						⇒	委員会の評価
取組	↑	5	↓	1	→		↑
効果	○	3	△	0	－		○

《課題》

- ・入館者数が周辺環境に配慮しながらとはいえ目標値の38.7%に留まっている。広報、SNS等において、積極的に施設のPRなど市民へ情報として発信をこころがけてほしい。日曜祝日等閉館などへの今後の対応が望まれる。
- ・赤字が続く経営は好ましくなく、鎌倉を知る機関として有効機能させる必要がある。
- ・歴史文化交流館は利用者が増えることで、赤字が発生した場合の補填ができるのではないかと。近隣住民には無料で招待するなど、優先的な利用してもらうことで理解を求めることも考えるべき。
- ・財政状況が厳しい中、市民意識調査において「経費をかけすぎている」とい意見が多いこと等、効率性の面で検討が必要。発掘調査費補助金制度を活用しながら、発掘調査待機期間の短縮を図る必要がある。
- ・「目標とすべきまちの姿」にある文化財のデータベース化を急ぐこと。

《提言》

- ・鎌倉国宝館、鎌倉歴史文化交流館は、教育、学術及び文化の発展に寄与することが目的としかたなく考えるのではなく、観光地でもあるので、目玉として、もっと広くの人に鎌倉の文化を知ってもらうよう発信する。
- ・29年度開館した鎌倉歴史文化交流館については指標にある「入館者数」のみならず、開館初年度における「積極的な運営」の具体的な実施内容やその成果・問題点について記載すべきである。
- ・データベース化すると他の様残な事業の計画等が立てやすくなる。また、様々な指標が作りやすくなるので、早急に構築すべき。
- ・教育や授業として何回利用されたか等についても指標として頂きたい。

《質問》

- ・「目標とすべきまちの姿」にある「データベース化」は進んでいるのか？
- ・指標としている「未報告調査件数」とは何か、また「保存修理件数」「入館者数」の目標件数はどのように定めているのか。
- ・「発掘調査までの待機時間」は減少させる事が目標なのに、「目標値」が一定なのはなぜか？